

インタビュー コロナ禍に立ち向かうために

いまだ終息が見えない新型コロナウイルス感染症。今後の見通しと対策は。

関西福祉大学 社会福祉学部
社会福祉学科/同 大学院 社会福祉学研究科

勝田吉彰 教授

新たな変異株が生まれる可能性も

——新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。

WHO が毎週火曜日に出しているレポートの8月17日付を見ると、地域ごとにばらつきはあるものの、ここ1カ月以上、全世界的に毎週増加の一途をたどっていることが分かります。日本もこの大きな流れの中にあります。

——変異株が感染拡大の大きな要因と考えられます。今後も新たに生まれる可能性は？

実はウイルスの変異株というのは、2週間に1回は発生しています。ウイルス遺伝子は正確にコピーを繰り返して増殖していきます。ところがコピーミスが起こる。大半は消えてなくなるのですが、中には生き残って一段と強力になるものも出てきます。これが変異株で、2つに分類されます。1つはVOC (Variants of Concern)、懸念すべき変異株。もう1つはVOCの下に位置付けられるVOI (Variants of Interest)、関心をもっておくべき変異株です。デルタ株はVOC、こうした感染力の強い変異株が今後も発生する可能性は十分あります。

——これからも感染の拡大と縮小を繰り返すと。

大事なことは、感染拡大のピークをどこまで小さくできるか。ワクチン接種の進み具合にかかっています。ワクチン接種が進んだといっても、主に先進国での話であって、途上国での接種を何とかしないと。こうした国々にも大勢の

日本人駐在員がいるわけですから。

早い判断で先手を打つ

——日外協が行ったアンケート調査結果から気づいた点を3つご紹介しますので、ご意見・ご助言をお願いします。

1つ目は、海外でコロナに感染した場合、現地で適切な治療が受けられない恐れがあり、早期に帰国させるべきか悩んでいる企業が多いということです。

感染者が急増すると多くの国で医療崩壊が起こります。病院にすら行けなくなるのです。インドやインドネシアやミャンマーで酸素を求める人々が長い列をつくっていると報じられていたのは、記憶に新しいかと思います。基本は早期に帰国させることです。

——2つ目は、帰国させる判断基準。例えば、人口10万人あたりの陽性者数、病床の埋まり具合、日常生活が普通に送れるかどうかなどが基準として設けられています。

基準に基づき早く判断を下すようにしてください。また、何より感染リスクを考えると、早くワクチン接種を受けておくべきでしょう。

——3つ目は、そのワクチンですが、中国製、ロシア製もあって現地の日本人駐在員は安全性への懸念から打つべきか迷っているようです。

安全性より、効果が芳しくないものがあることが問題です。ただ、ロシア製の「スプートニク」は権威ある医学雑誌『ランセット』が効果ありとの論文を載せているぐらいなので、お勧